



晴天に恵まれた10月30日土曜日、学園内図書スペー<sup>ス</sup>にて令和3年度の清香会総会が開催されました。コロナ禍の対策として、出席者数20名を上限とし、密を回避し、開催時間も1時間と縮小して行いました。そ

美会長のあいさつでは、コロナ禍で依然厳しい状況が続く中で、清香会の活動も、制限のあるものとなっていましたが、校章の梅に寄せる思いや母校を愛する気持ちは変わらず、明るい未来に向けて進んで行きましょうとの旨でした。続いて、高津稻穂理事長のあいさつでは、来る2023年の創立120周年に向けて、校舎の建て替えも行われています。生徒数確保のために卒業生諸姉に是非ともご協力ををお願いしたい。今後も学園へのご支援ご鞭撻をお願いします。共に歩んで行きましょうとのお話しをいたしました。棚橋忠夫先生のお話しをいたことを、事後になりましたが、お知らせいたします。

任幹事の方のみにご案内状を送付し、開催に至りました。そのため、今年度の総会も常任幹事の方のみにご案内状を送付して、開催に至りました。河添健校長には、清香会入試説明会を始めました。木澤子副会長の開会の辞から始めました。小林真由

会員の方々へお知らせし、盛會になりますことを願っております。

(文責 編集部)

## 令和3年度 清香会総会報告

### 「学園図書スペースにて」

### 東京女子学園120周年プロジェクト

東京女子学園理事 棚 橋 敦



本学園は女子教育の重要性を痛感した棚橋一郎、山本宣喨、小川銀次郎、實吉益美、杉浦鋼太郎、高津鍊三郎、吉岡哲太郎の7氏により設立を計画され、棚橋絢子を校長に迎え、高等女学校令による4年制の府下最初の私立高等女学校として1903(明治36)年に創立しました。当時、生徒数は83名、教員11名でした。

日本の将来を見据えた創立者たちが、女性が近代社会で、活躍することの重要性を痛感してから1世紀を超えて、2023年には創立1

20周年を迎えます。

そこで、学園は、創立1

20周年を迎えるあたり、

あらたな社会で女性がより

活躍することを見据え、東

京の中心となりえる三田の

地に、時代にふさわしい新

校舎の建築を進めています。

学園(1階~6階~11階~

屋上)と賃貸オフィス(7

階~10階)を併設した、地

上12階~10階上テニスコート

(高さ58m)の新校舎とな

ります。この年3月の卒業式は新校舎でおこないます。

新校舎のコンセプトは、「柔軟な学びの場」をキーワードに、探究・協働・創造を

通じて、対話と感動を共感する学びの場とします。そ

のために、全館Wi-Fi設置、各所にモニター設置などデ

ジタル化に対応できる教育環境を整備します。また、各階は、ロの字型に周囲に

教室(部屋)を配置し、教室を一歩出た場所に、ディ

スカッショーン、プレゼンテ

ーションなどの教育活動はも

ちろんのこと、休み時間や放課後にも、コミュニケーションを活発にできる空間

を設置します。この空間は、スクエアと名付ける予定です。スクエアとは、広義に

される多目的教室は、玄孫

の授業を開始する予定です。

用

し、教科教育では学べな



清香会幹事会	1組 稲田千穂・那須陽南
会員登録	2組 松山良菜・中村明日美
会員登録	3組 大塚朱乃・國分里美

会員登録	書記 岡田彩香
------	---------

段階では、詳細のご報告はできませんが、ぜひ新校舎を映す予定です。

TEL 03-3451-0922	〒108-0014 東京都港区芝四丁目一番三〇号
口座番号01804-91291	PAO三三四五一一九〇二
東京女子学園清香会発行	印 刷 所
編集責任者 小島章子	ヤシ印刷写株式会社

## 實吉幹夫先生追悼文



僕が初めて中1から高3まで、6ヶ年の生徒を預かった時の事。4月5日の新年度の打ち合わせ会後の会話である。

「坪さんは覚えが悪いな！」

生徒の名前は、入学前に全部覚えなくちゃ」。『中学入試を終え、4月の入学式までに入試の願書と入試時のアンケートを利用して140人近い生徒の顔と名前、出身小学校、塾名まで覚えて当たり前」と實吉先生から言わされた。自分自身は、預かるクラスの生徒の顔と名前は覚えたものの、学年

さらに實吉先生は、他学年の廊下ですれ違う生徒全員の顔と名前が判るようにするまで言い切った。すなわち、学校の生徒全員の顔と名前、その他の事項も覚えると言う事である。実際に廊下で生徒によく声をかけていた。声を掛けられた生徒が自分のことを知ついてくれることにただただ驚いた様子であつたし、うれしそうだった。

新しい学年を持つたびに、その時の会話を思い出す。

をしてはどうか、と。当日、先生が出席されないのを心配しながらオランダインをしていくと、クラス会・同期会とまとめ役の宮井さんのL.I.N.E.がフリーで、穴井さんを支えてクラス委員をしていた小林さんの画面は声だけが出なくなり、私の画面は明るくなったり、暗くなったり。



# 最後のクラス会 渡邊正巳先生旅立つ

池田喜久恵

教師として当たり前のことかも知れないがなかなかできることではない。生徒から見れば自分対先生なのであるから、自分のことを嘗めておいてくれるのが当たり前のことがない。襟を正され前のことである。襟を正されなければいけないことである。一緒に飲んでいる時でも實吉先生の口癖は「僕は東京女子学園を守る責任がある」。子どもの頃から親父「新助先生」に、「生徒あっての学園だから、その一人ひとりを覚えて当たり前」と言われて育つたといい、自分の中にもいつの間にか同じ考え方がある。



渡邊先生 LINE 了りこ

また、数日前に中1から高3まで渡邊先生のクラスだった山本さんの夢枕に、「今年のクラス会は中止になるかも」と先生が話されたとか。私達のオンラインの頃、先生は茶毬にふされていらした事を後から知りました。

お酒が入って酔つてくると、「僕は生徒の夢を叶える手助けがしたいんだよ」「まだ、生徒と一緒にできることがあるんじやないかな」「校長室で生徒と一緒に昼飯を食べながら意見が聞けたらなあ」が口癖だつた。そんなことを言いながらい

が生まれたといい切る。強い信念であり、本音であった教職に就き40年以上過ごした中で、他校も含めて多くの教職員と出逢ってきたが、預かった生徒に対する思いがここまで強い先生はそう多くなかつた。

令和3年3月で退職された先生から  
卒業生のみなさんへ

A black and white portrait photograph of Dr. Toshiyuki Yamamoto. He is a middle-aged man with dark hair, wearing a light-colored blazer over a pink shirt. He is looking directly at the camera with a neutral expression.

去年の春同様に、朝は子の鳴き声で目を覚ます。なじみの声を聞くのがうしい。今年も庭を歩いてる。規則正しく季節は巡っているのだ。

すに右往左往する人々、とりあえず先送り、考えずに通り過ぎようとする人たちが、渦を巻き停滞しているのを感じた。東京の夏は、息苦しく暑苦しい。

語の「笑」は花が「咲く」を連想させるが、軽井沢での花見は東京の一月遅れ。5月の連休時期になる。しかし、この花に先立つて目を楽しませる新緑の芽吹きこそが「山笑う」なのだと感じた。眠っていた山が目覚めていく。

野沢節  
不便を楽しむためにテレビを置かず、ラジオを聞く  
毎日。午前中のラジオ番  
はニュースが多く、つまり  
ぬタレントのおしゃべり、少ない。「論より証拠」的  
映像、つまり論理がない  
レビ映像。うろうらさま、  
う観点のごまかしがないジオ。ラジオでは聴覚剌激音声を順序通りに聞き取  
わけで、その分視覚と違  
て論理的であることに気

山暮らし

山笑ふ 歳月人を  
隔てけり

鈴木真砂女

春は山菜の季節である。毎日、こごみ・筍(淡竹根曲がり竹)・うるい・のんぞう・もみじがさ・とんこ・蕨・こしあぶらなど・わさびの茎を食した。

間は順序よく気持ちよく過ぎて行く。  
入学式・体育祭・梅香祭・修学旅行・受験小論文指導・卒業式と数々の行事をこなしながら、四十年の学校時間も山同様に規則正しく過ぎていったと感じる。学校もまた人界からいささか隔離された良き場所であったのだ。コレからもそのような時間を過ごすべく、山暮らしを楽しもうと思つたる。

人界は様々な思惑が渦巻き停滞しているが、山の色づいて行く。山装ふ湯けむりに世事遠くせり 鈴木綾

ついた。東京発のニュース（新型コロナやオリンピック、政局の混乱）を、距離を隔てると共に、耳から入れることで客観的に考えることになる。

命と経済、利権と私欲が渦巻き、説明がなく情報が空回りする。自己判断できず、右往左往する人々、とりあえず先送り、考えずに通り過ぎようとする人たちが、渦を巻き停滞しているのを感じた。東京の夏は、息苦しく暑苦しい。

軽井沢の短い夏が過ぎ、女郎花・吾亦紅が咲きだした。味噌汁がそこぶる旨いジゴボウを八ヶ岳の唐松林まで足をのばして取りにいった。コノハツ山は、一気に

あんた、若いんだから楽しいことに  
交わらなくちゃだめよ

倉根雅彥

昨年、40年  
以上お世話になつた東京女子学園を定年で退職しまし  
た。今まで、支えてくださつた皆様へ  
の感謝とともに報告させていただきます。  
思い返してみると、初めての授業で、学生時代に塾で教えていた中学生には通じた言葉を理解してくれない女子中学生に手こずったことや講師室で出会つた多才な先生方のことなどが懐かしく浮かんできます。その中でも強く印象に残つているのは、講師室に入ったとき、妙な圧を感じる高齢の先生方がいたことです。歳をお尋ねしたことです。歳をお尋ねしたわけではないので正確なことは分かりませんがたぶん70才は超えていたらうと思われます。伝統のある学校であることを強く感じた瞬間でした。みなさんお歳なので機敏に動くというわけではありませんが、その所作はもともとというよりはゆつたりとした余裕を感じるものでした。

コート掛けにコートと帽子を掛け、背筋をすっと伸ばして無言で椅子に座り、お茶をする。なんかスマートなんですよね。休み時間には生徒がやってきて「先生の授業は分かりやすい」といつて帰っていく。私の席の前で繰り広げられるその光景は、慣れない女子学生相手の授業に四苦八苦しんでいる自分に、お手本を示してくれているようでした。さて、表題の「あんた、若いんだから楽しいことに交わらなくちゃダメよ」ですが、これは私の隣の席に



A black and white portrait of Mr. Sano, a middle-aged man with dark hair and glasses, wearing a dark suit, white shirt, and patterned tie. He is smiling at the camera.

## 会員のみなさまから

## 水無月の会散会 尾形光琳かるた寄付

文責・編集部

茅原さんと前回  
ラス会で幹事を引  
けながら、運悪く  
が世界中に蔓延  
のですが、今年の  
ころ漸く非常事態  
じられた時期が続き  
むを得ず静観して  
らば対応は安全だと  
と、母校に近い「  
プリンスホテルを  
して、11月9日に  
することを決めま  
ご存命でも参加  
ない方もいました

卒寿半年前のクラス会のこと

高校3回生 昭和26年卒業 林 輝子

10月30日、2019年より旧A館4階の清香会室で月に1回行われていた高校3回生（昭和26年卒業）のかるた（百人一首）を楽しむ会「水無月の会」が散会となりました。約2年にして、渡るコロナ禍が大きく影響し、した。5名の方々が来校され、古典刊行会から刊行されました「尾形光琳かるた」一式と記念品を清香会会长長と副会長にご寄贈がありました。

令和4年1月15日には校内で行われた「中学校百人一首」の会場で展示され、生

## 卒寿半年前のクラス会のこと

高校3回生 昭和26年卒業 林 輝子

茅原さんと前回のクラブ会で幹事を引き受けながら、運悪くコロナが世界中に蔓延し、人々が集まることを禁じられた時期が続き、やむを得ず静観していましたが、今年の十月のですが、今年の十月ころ漸く非常事態宣言が解除され、ホテルならば対応は安全だらうと、母校に近い「品川プリンスホテルを下見して、11月9日に催行することを決めました。ご存命でも参加できない方もいましたが、



高女第3回卒業2組クラス回 2021年11月9日



光琳カルタ寄贈



光琳カルタ

とにかく11名、当日雨天の中を全員が出席という快挙でした。中には、藤沢から「介護タクシー」で参加された方もいて、無事に開会いたしました。それ以降、記念写真と共に、池田純子さんが記録を保存していたことを知り、感激の至りで、彼女のお陰で今まで続けられたのではと全員で感謝しています。

会場が麻布十番のお店だった頃、近くの池田邸で二次会をやらせていただきたことも、絆を深めました。子ども連れで参加したクラス会は、遠い昔初めの頃は時代のせいか和服姿の方が多かったよう思います。

やはり、卒寿を迎えては集うことが無理で、米寿プラス1年を最後にすることに致しました。

永久幹事を引き受けて下さった池田さん、工藤さんに、声かけをお願いして、元気な人同志再会の機会があれば、うれしいことです。

令和3年度2021梅香祭  
開催テーマは「FREEEE 生徒の生徒による生徒のための梅香祭」

FREEEEの4つのEには、それぞれに Exciting (ワクワクする) Enthusiastic (熱心な) Effort (努力) Enjoy (楽しむ) 意味を含んでおり、「E」が多いことでより自由さを強調したそうです。開催にあたっては、感染予防の観点から、生徒と教職員のみの校内開催で時間も短縮して行いました。準備から、当日の催し・後夜祭は保護者にもオンライン配信されました。今年度の「梅香賞」吹奏楽部、「FREEEE 賞」軽音楽部でした。

(令和4年度梅香祭予定は9月24日(土), 25日(日)です。)

令和3年度2021梅香祭  
開催テーマは「FREEEE 生徒の生徒による生徒のための梅香祭」

FREEEEの4つのEには、それぞれに Exciting (ワクワクする) Enthusiastic (熱心な) Effort (努力) Enjoy (楽しむ) 意味を含んでおり、「E」が多いことでより自由さを強調したそうです。開催にあたっては、感染予防の観点から、生徒と教職員のみの校内開催で時間も短縮して行いました。準備から、当日の催し・後夜祭は保護者にもオンライン配信されました。今年度の「梅香賞」吹奏楽部、「FREEEE 賞」軽音楽部でした。

(令和4年度梅香祭予定は9月24日(土), 25日(日)です。)

コロナ禍で家庭科授業内での調理の実施が厳しい状況になりました。その中で、近年人気のアイシングクッキー実習講習を卒業生講師を迎えて行なうことが叶いました。生徒も大満足の授業後、編集部でインタビューを行いました。

## ワクワクとキラキラ

ワクワクとキラキラ  
高校55回生 平成15年卒 小林  
スタジオに通い、料理・パン・ケー  
キについて学び、ライセンスも取得  
しました。その後は、思い切って転  
職し、クッキングスタジオの講師兼  
営業職となり、「食」に関する仕事に就  
くこととなりました。  
た。  
出産を機に退職し、子育てに専念す  
る日々を過ごしました。  
子どもの成長と共に、少しずつ社会と繋がる機会も増えていきました。姉の経営するエステサロンを手伝うようになり、ネイリストの



就職はフードサービスの企業で「食」に関わることが希望でした。しかし、実際

資格を取得したり、フルーツアートやアイシングクッキー指導の資格も取得しました。アイシングクッキーをはじめたのは、子どもの誕生日ケーキがきっかけです。当初は生クリームを使つて、子どもが好きなキャラクターを描いていました。成長と共に好きなキャラクターも、戦隊ヒーローやプリンセス系と複雑に変化し、生クリームで描くには限界を感じていた中で、クッキーならばデザインが可能にな

A photograph showing several students in a classroom setting, focused on their work with clay. They are wearing blue headbands and face masks. One student in the foreground is using a tool to shape a piece of clay. In the background, other students are also working at their desks. The room has white walls and a chalkboard.



令和3年 教育実習生

び込んできました。これまでも長期休みの折には、自宅で子供向けのアイシングクッキー教室を開くこともありました。せっかくの機会なので、今回の授業依頼をお受けすることとなりました。高校時代から変わらず、ワクワクすることに対して、思い立つたら直ぐに行動する姿勢は変わりません。これは常にポジティブな、東京女子学園の出身の姉の影響を強く受けています。仕事の再開に向けて夫婦での約束は、生活はあくまでも子ども中心にするこ

と、今は子育てが一番の仕事と考えて行動することであります。自営業の両親の下で育ち、働く親の姿を常に見ながら成長してきました。仕事を家庭も大切に考えて育ててくれた両親を尊敬しています。自分の子ども達にも、親の働く姿を見せたいと考えています。世の中は上手く行くことばかりではありません。失敗したことや悔しないで、次につなぎ進めて、キラキラ前向きに歩みます。

**高校72回生（令和2年卒）成人を祝う会報告**

令和4年1月10日成人の日に学園向かいのザ・セレスティン芝東京にて、今年成人を迎えた卒業生と保護者・理事長・校長・旧担任の先生方など75名が集まり感染防止に細心の注意を払つて「成人を祝う会」を開きました。司会進行は大田彩乃さんでした。華やかな振袖やドレスに身を包んだ新成人は輝く笑顔で、卒業以来の久しぶりの再会を喜び合いました。2年前の卒業時にはコロナ禍のため、卒

令和3年 学園人事

ムページの卒業生のサイトに掲載されております。学園の近況と合わせて是非ご覧ください。現在はどなたでも閲覧することが可能ですが、個人情報保護からもこのシステムが定着した将来においては会員の方にパワードをお知せして閲覧する形式に変更を考えております。

ご意見やご希望などありましたら、メール([seikoukai@tokyo-joshi.ac.jp](mailto:seikoukai@tokyo-joshi.ac.jp))またはFAX(03-3451-0902)にてお寄せください。

日本女子大学 家政学部  
中学・高校と6年間を過  
杉山未那子



**高校72回生（令和2年卒）成人を祝う会報告**

令和4年1月10日成人の日に学園向かいのザ・セレスティン芝東京にて、今年成人を迎えた卒業生と保護者・理事長・校長・旧担任の先生方など75名が集まり、感染防止に細心の注意を払つて「成人を祝う会」を開きました。司会進行は大田彩乃さんでした。華やかな振袖やドレスに身を包んだ新成人は輝く笑顔で、卒業以来の久しぶりの再会を喜び合いました。2年前の卒業時にはコロナ禍のため、卒業時には、教育実習生として戻ってきます、と心中で誓つたとおりに、今回の実習が実現しました。コロナ禍の状況にもかかわらず、実習を受け入れてくださつたこと、また実習期間中には、多くの先生方からあたたかいご指導をいただきました。感謝の気持ちでいっぱいです。実習生として過ごした3週間は生徒だった時代とは、まったく違う視点から学園の新たな一面を見ることができました、そして、学園は今まさに、新しい時代がはじまる「黎明期」にあると強く感じました。これから、どんな革新が起こるのか、創立120周年を前に、卒業生としておきな期待を抱いています。ありがとうございました。

ムページの卒業生のサイトに掲載されております。学園の近況と合わせて是非ご覧ください。現在はどなたでも閲覧することが可能ですが、個人情報保護からもこのシステムが定着した将来においては会員の方にパスワードをお知せして閲覧する形式に変更を考えております。

ご意見やご希望などありましたらメール([seikoukai@tokyo-joshi.ac.jp](mailto:seikoukai@tokyo-joshi.ac.jp))、またはFAX(03-3451-0902)にてお寄せください。